

b. 注意力が欠如していた

・ 1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・ 活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・ 体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・ 活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・ 活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・ 活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった

・ 体調が悪かった。	いいえ
・ 悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・ 装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・ 装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・ 装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・ 必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・ 障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	はい
・ 特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・ 狭隘な場所であった。	はい
・ 暑かった（寒かった）。	いいえ
・ 野次馬が多かった。	いいえ
・ 現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・ 足元が躓いたり滑りやすかった。	はい
・ 足元の強度が不足していた。	はい

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・ 活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・ 指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・ 指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	はい

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・ 隊員の連携が不十分だった。	はい
・ 隊員が不足していた。	はい

○その他

l. その他の理由があった。

いいえ

・発生日時：平成18年 9月 午後12時頃

経過	現場の状況	隊員A	隊員B	隊員C	隊員D・E	備考
		消防司令補 ・年齢 53 歳 ・勤続 32 年 ・現場 32 年	消防士長 ・年齢 38 歳 ・勤続 17 年 ・現場 17 年	消防副士長 ・年齢 31 歳 ・勤続 9 年 ・現場 9 年	不明	
1	線路沿いの一般建物火災	火災、木造建物への出動				注水を急いでいた。 線路の上り下りに安全管理者2名配置する。 放水開始、 放水開始直後、現場前を通過する上りの特急列車に遭遇する。 通過直前に合図を送る。 筒先員の退避が遅れ、列車と接触しそうになる。 接触を免れ、線路敷地外へ退避する。 列車接近の合図が遅れた また合図に拡声器等を使用していなかった。 筒先員が列車に対する注意力が散漫になっていた。
2		現場到着				
3		ポンプ車から線路敷地内に筒先部署する。				
4	現場手前は大きくカーブしていて見通しが悪く、また濃煙の為の視界不良					
5		放水開始、				
6	放水開始直後、現場前を通過する上りの特急列車に遭遇する。					
7		通過直前に合図を送る。				
8		筒先員の退避が遅れ、列車と接触しそうになる。				
9		接触を免れ、線路敷地外へ退避する。				

◎ヒヤリハットが起きたのはどうしてだと思うか？また、どうして負傷事故に至らなかったか
○直接的な原因:情報入力に問題があった。 ・体力、反射神経等身体能力が優れていた。 ・危険事象の対応方法を知っていた。 ・避難・退避がうまくいった。 ・指揮者が適切に指示した。

◎ヒヤリハットが起きた背後要因
(心理・体調について) ・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。 ・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。 ・活動に対する経験が不足していた。 (活動環境について) ・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。 ・狭隘な場所であった。 ・足元が躓いたり滑りやすかった。 ・足元の強度が不足していた。 (指揮・管理について) ・指示内容が実施困難であった。 ・隊員の連携が不十分だった。 ・隊員が不足していた。